

MISSION

SCRUM [SUPPORT CENTER FOR RURAL MEDICINE] NEWS

～未来につなぐ使命～

2026.4



Mission : Population ageing

山口の高齢化率は、全国より約10年進行。県土の約60%が「へき地」。

人口約135万人の山口県の高齢化率は約34%であり、全国より約10年進んでいると言われている。20年後には、人口が今より約30万人程度減少し、さらに高齢化が進むと予測されている※1。県内のへき地の高齢化はさらに深刻である。山口県における「へき地」は3つの法律(過疎地域持続的発展特別措置法、離島振興法、山村振興法)で定められ、県土の約60%を占める。おそらく一般の方がイメージしているよりも広く、ここには約230,000人(17%)が暮らしている。[右図]21の有人離島を含むこの「へき地」は、多くの場所で高齢化率が50%を超え、その高齢者の生活を支える次世代も減少している。その地域に暮らし続けるためのライフラインとも言える保健・医療・福祉は年々先細り、特に市町村合併後は深刻となっている。

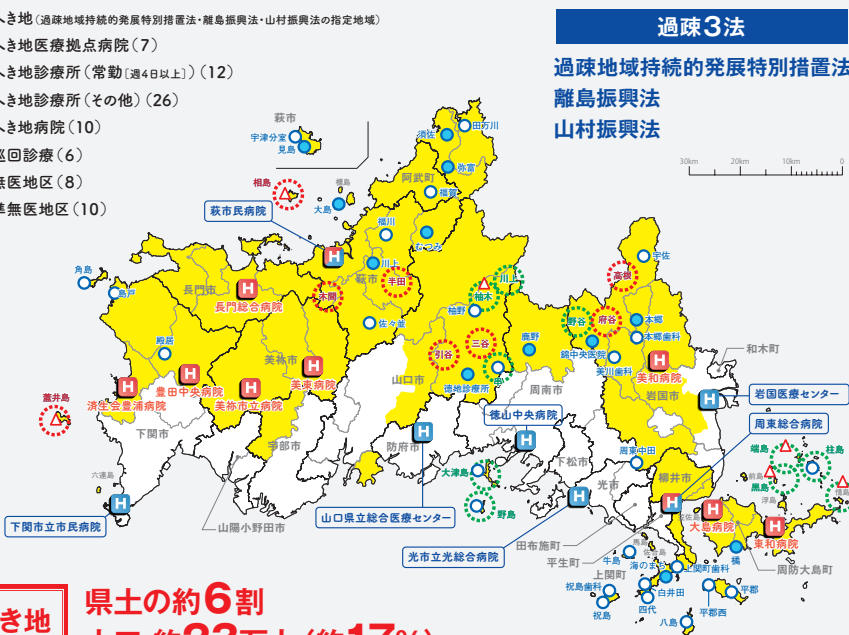
山口県は、国の「へき地保健医療対策等実施要綱」や県の「へき地保健医療計画」に基づき、へき地医療の確保・充実を図ってきた。昭和47年にへき地の医師確保を目的に自治医科大学が設置され、山口県の離島や山間部のへき地診療所の医師確保は以前よりも安定した。しかし、十分とは言えず県は、平成21年へき地医療機関での一定期間の勤務を義務づける修学資金制度「緊急医師確保対策枠(5名/年)」を地元山口大学に設置した。

※1 国立社会保障・人口問題研究所:日本の都道府県別将来推計人口 <http://www.ipss.go.jp/pp-fuken/j/fuken2007/t-page.asp>

山口県のへき地医療の現状

- へき地(過疎地域持続的発展特別措置法・離島振興法・山村振興法の指定地域)
- Hへき地医療拠点病院(7)
- へき地診療所(常勤(週4日以上))(12)
- へき地診療所(その他)(26)
- へき地病院(10)
- △巡回診療(6)
- 無医地区(8)
- 準無医地区(10)

※第8次山口県保健医療計画より抜粋

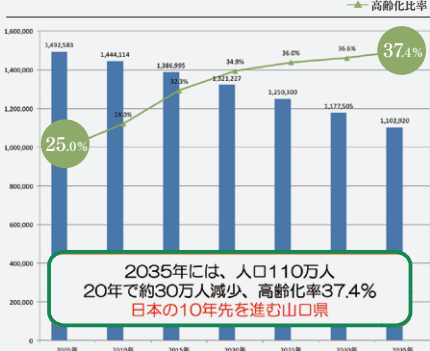


へき地 県土の約6割 人口約23万人(約17%)

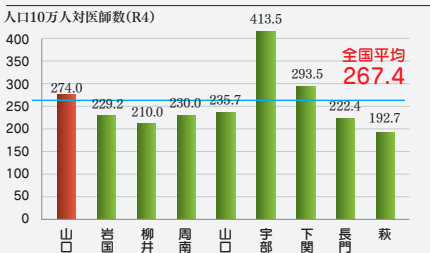
令和7年4月現在

日本は超高齢社会。避けられない事実

山口県の総人口と高齢化率の推移



医師の地域偏在(2次医療圏別医師数)



宇部医療圏 378.7人/10万人 萩医療圏 174.7人/10万人

Mission : New Systematic

新専門医制度により、医師の偏在が懸念。

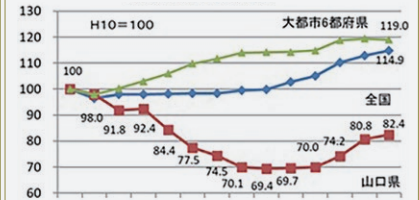
山口県では、医療圏毎の人口あたりの医師数に大きな偏りがあり(左図)、さらに35歳未満の医師数は減少し続け、医師の平均年齢は全国で2番目(53.3歳)となった。すべての圏域に各専門診療科を十分に配置することも難しく、診療科の偏在も深刻な課題である。県内のへき地では、近年、地域の医療を長年守ってきた医師の引退が相次いでいる。予測される人口減少のためか、新規開業や継承開業はほぼ期待できない。山口県でも前述の特定の診療科やへき地などの特定の地域で一定期間の勤務を義務とする修学資金制度(いわゆる地域枠)があるが、まだ医師や診療科の偏在に十分に対応できていないと言え、さらに平成30年度、新たな専門医制度が始まった。専攻医は、指導医や症例数の多いプログラムに集まる傾向にあり、指導医や症例数が限られるへき地では、医師の偏在がさらに深刻化するのではと懸念している。今後、山口県のへき地医療を確保し続けるためには、どうすればいいのか。へき地医療支援センターは「山口県のへき地に医療と安心を届け、ふるさとの地域社会を守ること」をミッションに、3つの軸(①診療支援、②仕組みづくり、③次世代の育成)を基本

定義では、高齢化率が21%を超えた社会を「超高齢社会」という。

として取り組んでいる。特に総合診療医の育成を含む「次世代の人材育成」は重要である。新専門医制度の趣旨を踏まえ、へき地勤務を義務とする医師の卒後の勤務要件やキャリア形成の仕組みをさらに充実させる必要がある。面(しくみ)で守る医療提供体制の再構築や多職種・異業種との連携、遠隔医療等のICTの活用も、今まで以上に推進する必要がある。医療人だけでなく、行政・地域住民と一緒にこの難題に取り組んでいくことが最も重要な鍵となる。

35歳未満の若い医師が都市部に一極集中することで地方では医師の高齢化や人材不足などによりさらなる疲弊が懸念される。

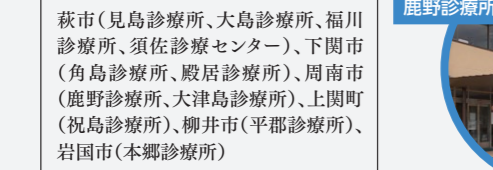
山口県の35歳未満の医師数の年次推移 (RR.1)



私たちの使命とは、山口県のへき地に暮らす住民に安心と安全を届けること。激変するへき地の現状・課題に対応できる新しい仕組みづくりが必要。

- 仕組みづくり
- ◎国と県と市町との連携で「へき地医療」を守る仕組みづくり
- ◎山口県第8次保健医療計画
- ◎医療人材育成事業(岩国市)
- ◎へき地遠隔医療推進協議会

- 診療支援
- ◎巡回診療:無医地区対策(S58~) 萩市相島、山口市楠木地区 荒天時のオンライン診療の実施(相島)
- ◎代診:へき地公立診療所の支援 オンライン診療による代診にも対応 ■H25~R6年度実績

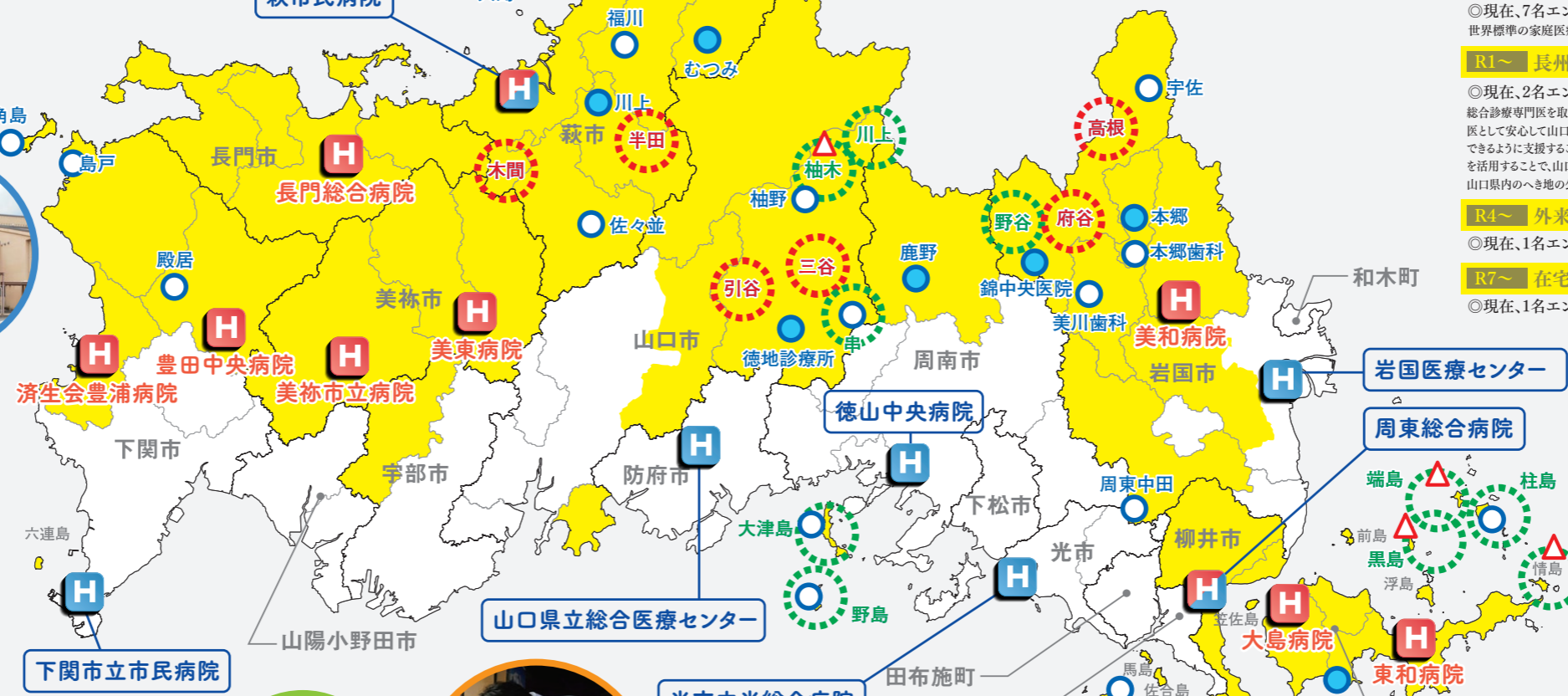


- ◎医師派遣: 休日急患診療所支援(H25~) 萩市休日急患診療センター(毎週日曜日) 長門市応急診療所(毎週火曜日) この支援による負担金で自治医大の義務明け医師をへき地医療支援センターに確保し、専門診療科の再キャリア形成が可能となり、県内定着に繋がっている(自治医大卒の義務明け医師6名が利用)
- ・へき地診療所支援 周南市国民健康保険鹿野診療所(H28~) 山口市徳地診療所(R3~) 山口県のへき地・中山間地域の住民が安心して暮らすことのできる医療提供体制を構築し、実践する(モデルケースとしての取り組み)

- ◎へき地医療支援ベッド機能(H26~) 入院施設のないへき地診療所や巡回診療先に定期的に受診する患者が入院が必要となった際、近隣の医療機関の受け入れが困難な場合のセーフティー機能
- ◎その他の取り組み

- ICTを積極的に活用した定期勉強会・メーリングリスト・Webカンファレンス
- 離島へき地の診療所にクラウド型電子カルテの導入支援
- 東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨など「被災地の診療支援」
- 新型コロナウイルス感染症対策(保健所支援、クラスター対応等)
- へき地のオンライン診療の手引きを発行(裏にQRコードあり)

- へき地(過疎地域持続的発展特別措置法・離島振興法・山村振興法の指定地域)
- H へき地医療拠点病院(7)
- ● へき地診療所(常勤[週4日以上])(12)
- ○ へき地診療所(その他)(26)
- H へき地病院(10)
- △ 巡回診療(6)
- ○ 無医地区(8)
- ○ 準無医地区(10)

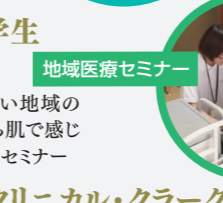


へき地に医療と安心を届け、ふるさとを守る。

新しい取り組みで次世代の医療人を育成する。

次世代の人財の育成に挑戦。

- 次世代の育成
- ◎保育園、小・中学生 「いのちと向き合う授業」 文部科学大臣賞を受賞 (H27:周南市岐山小)
- ◎医学生・看護学生・薬学生 やまぐち地域医療セミナー 地域医療セミナー 大学病院で経験することのできない地域の生活や医療の現状を地域住民から肌で感じることを目的とした現場で学ぶ医療セミナー
- ◎山口大学総合診療部臨床・クラークシップ ポリクリ 山口大学医学生(5・6年生)の臨床実習(総合診療)をへき地医療機関と連携して受け入れる(R5~)、山口大学総合診療部の専攻医の受け入れ開始



- ◎初期臨床研修医(卒後1・2年目) 地域医療研修、短期総合研修、総合内科

■ 地域医療研修の連携施設/萩市(見島診療所、大島診療所、須佐診療センター、川上診療所、萩市民病院、都志見病院等)、下関市(豊田中央病院、柳井市(平郡診療所)、岩国市(錦中央病院、美和病院、本郷診療所)、美祢市(美祢市立病院、美東病院)、周防大島町(東和病院、大島病院)、長門市(長門総合病院)、山口市(山口市徳地診療所)

- ◎総合診療専門医(卒後3~5年目) 専攻医のエントリー実績(14期生:計28名) 自治医大卒医/県外出身医師
- H24~ 長州総合医・家庭医養成プログラム
- H30~ 長州総合診療プログラム(日本専門医機構)

■ 連携施設:いずれもへき地公立医療機関/下関市(豊田中央病院)、美祢市(美祢市立病院、美東病院)、周防大島町(東和病院、大島病院)、岩国市(錦中央病院、美和病院)、柳井市(周東総合病院)、萩市(鹿野診療所、大津島診療所)、山口市(山口市徳地診療所)

2026年1名の専攻医がエントリーし、へき地で研修を開始

- ◎フェローコース(卒後6年目~)

- H30~ 長州家庭医療プログラム

◎現在、7名エントリー 世界標準の家庭医療専門医(WONCA)の資格取得が可能です。

- R1~ 長州総合医・家庭医アドバンスコース

◎現在、2名エントリー 総合診療専門医を取得後も山口県内に「学びと働く場」をつくり、総合診療専門医として安心して山口県の地域社会に貢献することで、医師としてもさらに成長できるように支援することが目的です。また、「山口県ドクターズ制度(3年間)」を活用することで、山口県職員として採用し、一定の研修の機会を確保しながら山口県内のへき地の公的医療機関で診療に従事していただくことも可能です。

- R4~ 外来スキルアップコース

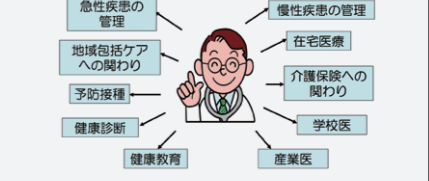
◎現在、1名エントリー(山口市徳地診療所)

- R7~ 在宅医療研修プログラム

◎現在、1名エントリー(山口市徳地診療所)

総合診療専門医とは?

まず診る・相談できる医師、地域も診る医師



へき地を守ることは「将来の日本」を守ることに繋がる。山口県のへき地・離島は日本の将来の姿かもしれない。「へき地を守る」ことは、それは将来の日本の地域医療を守ることに繋がるかもしれない。次世代を担う若者が、医師の養成・成長過程で、医療資源の足りないへき地で学ぶ意義はそこにあると考える。人財を育て、保健、医療、福祉を確保し、「ふるさと」の暮らしを守る。「へき地医療支援センター」のまだ始まったばかりの挑戦に今後も期待してほしい。

山口県でも「総合診療医」の育成を!

- ◎自治医科大学卒業医師の育成 「山口県立総合医療センターが 県内のへき地医療を担う医師を育成」

■自治医科大学卒業医師の派遣先(R8年度) 萩市(見島診療所、大島診療所)、下関市(豊田中央病院、角島診療所)、岩国市(美和病院、錦中央病院)、柳井市(周東総合病院、平郡診療所)、上関町(海のまち診療所)、周防大島町(東和病院、大島病院)、美祢市立病院、阿武町(あぶ診療所)

自治医科大学のミッション(設立の主旨)

医療に恵まれないへき地等における医療の確保向上及び地域住民の福祉の増進を図るため、昭和47年に設立された。毎年、各都道府県から2~3名入学し、卒業後は出身都道府県に戻り、5年制(義務年制)、知事の指示する医療機関に勤務すると学費が免除される。「医療の台所に灯をともす」役割より

卒業年度	前半			後半		
	1	2	3	4	5	6
派遣先	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)
派遣先	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)	山口県立総合医療センター(徳地)

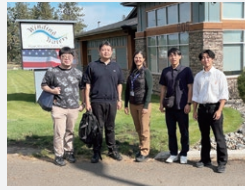
TOPICS 主な活動報告

2025.4.26-27 国際学会で発表



WONCA APR 2025で市村先生が「平部島における郵便局を活用したオンライン診療」をテーマに発表しました。

2025.9.8-12 海外視察



アメリカ合衆国オレゴン州でオンライン診療の視察を行いました。

2025.11.9 地域医療探求セミナー



医師を目指す高校生に向けてへき地医療の魅力を伝えました。

2026.1.12 サテライトセンター開設



山口大学医学部附属病院 総合診療推進サテライトセンターがへき地医療支援センター内に開設されました。

2026.2.7 へき地遠隔医療推進協議会を開催



第5回へき地遠隔医療推進協議会を東京大学本郷キャンパスで開催しました。

視察

令和7年度はへき地医療に関する調査研究班(10/20)、岩手県議会(1/21)、長崎県離島診療所ICT等普及協議会(2/5)など多くの団体が当センターを視察しました。

へき地医療支援センター(へき地医療支援部)

Masanori Harada [卒年/平成12年]
センター長・診療部長
原田 昌範
〈専門分野〉プライマリ・ケア/家庭医療/内科
◎資格
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医・家庭医療専門医
日本専門医機構 総合診療専門医・指導医
日本内科学会 総合内科専門医/日本外科学会 認定医
社会医学系専門医協会 専門医・指導医/日本DMAT隊員
自治医科大学臨床講師/山口大学・神戸大学非常勤講師

Yutaka Nakashima [卒年/平成14年]
副センター長・部長
中嶋 裕
〈専門分野〉プライマリ・ケア/家庭医療/内科
◎資格
日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医・指導医
日本内科学会 総合内科専門医/身体障害者指定医
日本DMAT隊員/インフェクションコントロールドクター(ICD)
自治医科大学 学外教授(地域医療担当)
社会医学系専門医協会 社会医学系専門医・指導医
日本在宅医療連合学会 専門医・指導医

Kei Miyano [卒年/平成17年]
副センター長・部長
宮野 馨
〈専門分野〉プライマリ・ケア/内科
◎資格
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医
日本内科学会 総合内科専門医
日本専門医機構 総合診療専門医

Hiroyuki Katayama [卒年/平成22年]
部長
片山 寛之
〈専門分野〉家庭医療/総合診療
◎資格
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医・家庭医療専門医
自治医科大学 学外講師(地域医療担当)

Soutaro Jinnouchi [卒年/平成28年]
部長
陣内 聡太郎
〈専門分野〉総合診療/家庭医療/内科
◎資格
日本専門医機構 総合診療専門医・特任指導医
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医・家庭医療専門医
日本静脈経腸栄養学会 TNT研修修了
身体障害者指定医/指定医薬成講習会修了
ACLSインストラクター/心電図検定1級

Tatsuya Murai [卒年/平成28年]
部長
村井 達哉
〈専門分野〉総合診療/家庭医療/内科
◎資格
日本専門医機構 総合診療専門医
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・家庭医療専門医
日本専門医機構 内科専門医
国立健康危機管理研究機構 実地疫学調査員養成コース(FETP)修了

Naoyuki Ichimura [卒年/平成29年]
部長
市村 尚之
〈専門分野〉総合診療/家庭医療/公衆衛生
◎資格
日本専門医機構 総合診療専門医
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・家庭医療専門医
国立保健医療科学院 保健福祉行政管理分野前副前期(基礎)修了
統計検定2級

Mai Okamoto [卒年/平成29年]
部長
岡本 麻衣
〈専門分野〉総合診療/家庭医療
◎資格
日本専門医機構 総合診療専門医
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医・家庭医療専門医

Yutarou Okamoto [卒年/平成29年]
部長
岡本 雄太郎
〈専門分野〉総合診療/家庭医療/在宅医療
◎資格
日本専門医機構 総合診療専門医
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医・家庭医療専門医

Hiroshi Okamura [卒年/平成元年]
部長
岡村 宏
〈専門分野〉救急医学/プライマリ・ケア/循環器/総合内科
◎資格
日本救急医学会 専門医
日本循環器学会 専門医
日本内科学会 総合内科専門医
日本DMAT隊員/死体解剖資格

Natsue Kaneko [卒年/平成18年]
部長
金子 奈津江
〈専門分野〉脳神経外科全般/内科全般
◎資格
日本脳神経外科学会 専門医
日本内科学会 総合内科専門医

Nobuaki Naito [卒年/平成31年]
副部長
内藤 伸昭
〈専門分野〉総合診療

Souichiro Wakisaka [卒年/令和2年]
医師
脇阪 宗一郎
〈専門分野〉総合診療

Miki Yamada [卒年/令和2年]
医師
山田 美貴
〈専門分野〉総合診療/内科
◎資格
日本専門医機構 総合診療専門医

Kyouko Yamaguchi
主任主事
山口 喬子

最新の情報はホームページやSNSで
長州総合診療プログラムWEBサイト www.choshuweb.com

地方独立行政法人 山口県立病院機構
山口県立総合医療センター
へき地医療支援センター(へき地医療支援部)

TEL 0835-22-4411 山口県立総合医療センター
〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地 <https://www.ymgph.jp>
公益社団法人地域医療振興協会山口県支部 事務局